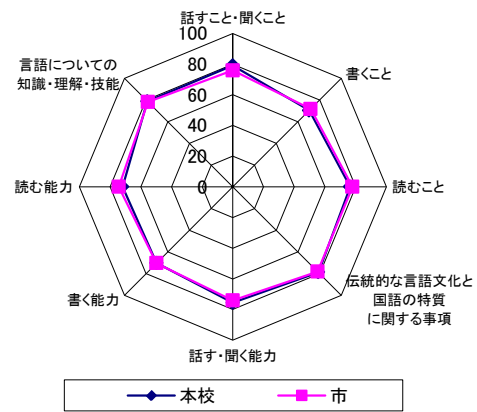


宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	79.0	75.9	71.7
	書くこと	70.4	71.8	73.2
	読むこと	76.5	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.8	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	75.6	74.2	70.8
	書く能力	70.2	70.4	71.0
	読む能力	71.9	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	78.8	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

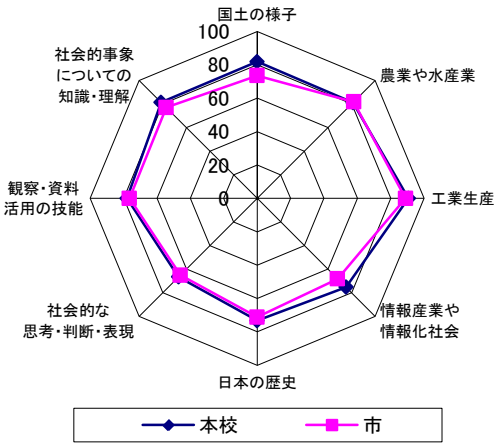
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率は79.0%で、市平均より4.9ポイント上回っている。 ○話合いの内容を聞き、司会者の役割を理解して、テーマに合った発言ができるかどうかを問う問題に関して、正答率が53.5%と市平均よりも5.8ポイント高くなっている。	・国語の授業だけでなく、話合い活動を様々な教科で取り入れたり、学級活動において、意見を伝え合ったり、友達の考えを聞く経験をさせたりすることで、話合いの基本となる話すこと・聞くことが身に付いてきていると考えられる。今後も、自分たちの身近な課題を解決するための話合い活動を取り入れ、主体的に意見を出し合う態度を身に付けさせていく。
書くこと	●正答率は70.4%で、市平均より1.4ポイント下回っている。 ○グラフから読み取った事実をもとに、自分の意見を書く問題では、正答率は85.9%で、市平均より6ポイント上回った。 ●アンケート調査の結果(グラフ)の全体の傾向を掴み、読み取った事実を正しく記述する問題では、数値を間違えて引用してしまう解答が多く見られた。	・数値を間違えて引用したりすることがないように、自分が書いた文章と資料の内容が合致しているのかを読み返し、慎重に確認する習慣を身に付けさせたい。 ・文字数や段落の指定のある文章を書く機会を設け、指定された条件の中で文章を組み立てられる力を身に付けられるようにしていく。
読むこと	●正答率は76.5%で、市平均より1.5ポイント下回っている。 ●物語の問題では、登場人物の心情を読み取ったり、心情の変化を読み取ったりする問題で市平均を若干下回り、課題が見られた。 ○説明文の段落相互の関係を読み取る問題や書き方の特徴を問う問題の正答率は、市平均とほぼ同様である。	・登場人物の心情を表す言葉に線を引くなど、解き方の具体的な指導を繰り返し行う。 ・国語の授業の文章の読み取りの学習では、文章の中のどの部分を根拠として読み取ったのかを問い、根拠を意識しながら読み取れるよう、読み取りの仕方を指導をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は78.8%で、市平均とほぼ同様であった。 ○漢字では、5年配当漢字「演技」「枝」・6年配当漢字「疑う」の読み問題、5年配当漢字「責任」「許可」の書き問題の正答率が市の平均を上回っている。 ○三字熟語の構成を理解することができている。 ●文の中の「主語」の理解や「敬語」の使い方の理解が低く、市平均を下回っている。	・漢字の反復練習だけではなく、小テストを小まめに行い、確実に定着できるようにしていく。 ・既習漢字を活用して文章を書けるよう、既習漢字が混ざった文章を書く(見て書く・聞いて書く)機会を意図的に設け、活用力を高めていきたい。 ・主語を意識して、話したり、書いたりできるようにしていく。 ・謙譲語や尊敬語の理解を深めるために、再度敬語の確認する。日常生活の中でも敬語の指導を繰り返し行っていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	81.9	73.6	76.2
	農業や水産業	81.2	81.9	77.5
	工業生産	90.6	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	75.3	68.2	61.0
	日本の歴史	73.2	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.6	65.1	62.1
	観察・資料活用技能	77.9	76.5	75.2
	社会的事象についての知識・理解	81.4	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

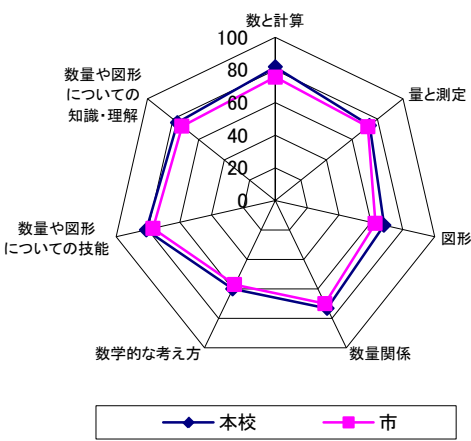
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○正答率は81.9%で、市平均より8.3ポイント上回っている。 ○日本の周辺の海洋名や国の場所と名前を正しく理解できている80%を超えている。	・地図帳で場所を確認するだけでなく、それぞれの国の特産物や地形・気候など特色にも注目して覚えさせたい。また、日本と比較することで、自国への関心も高めていきたい。
農業や水産業	○正答率は81.2%で、市平均とほぼ同様である。 ●資料に書かれていることを読み取り、正しい選択肢を選ぶ問題については、正しく読み取れてない様子が見られる。	・インターネットやデジタル教科書などの映像や写真、統計資料などを活用し、正しく資料を読み取れるよう、見るポイントなどを指導をしていく。また、読み取った言葉に表現する活動を多く取り入れて、社会的思考力・判断力を高めていきたい。
工業生産	○正答率は90.6%で、市平均とほぼ同様である。 ○工業生産の輸送の工夫として、環境保全への取り組みについて、資料から読み取るだけでなく、表現する問題について、以前と比べ自分の考えを表現できる児童が多くなっている。	・工業生産にはどんなものがあるのか正しく理解させるだけでなく、作られた製品が国民生活を支えているのだと理解させていきたい。また、工業生産に従事している人々は、使う人のことや環境のことを考えて、生産したり、配送したりなど、資料から正しく読み取れるようにしていきたい。
情報産業や情報化社会	○正答率は75.3%で、市平均より7.1ポイント上回っている。 ●新聞やテレビの役割、情報ネットワークと生活との関わりについては正答率が70%台と、情報についての知識の定着には課題が見られる。	・情報ネットワークを利用する機会は、今後も増えていくと考えられる。社会科の授業だけでなく、道徳や学級活動の時間を活用し、正しい使い方やメディアリテラシーの理解を図っていきたい。 ・学習した情報についての知識を、自分の生活にどのように活用されているのか考えさせ、表現活動を増やしていきたい。
日本の歴史	・正答率は73.2%で、市平均とほぼ同様である。 ○幕末から明治初期の人物の働きや国づくりについて正しく理解している児童が増えてきている。 ●どの時代においても知識の定着が低いものは、表現できていない。	・歴史への興味関心を高めるため、実物を見たり、インターネットやデジタル教科書などICT教材を活用したりするなど授業の導入を工夫するなど、工夫していきたい。 ・時代によって知識の定着に個人差が大きい傾向が見られる。小テストやプリントなど復習を行ってほしい。また、その知識を資料の情報と組み合わせたり、表現活動を取り入れたりすることで、知識の定着を図ってほしい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.8	75.6	75.8
	量と測定	73.8	72.5	71.2
	図形	68.2	62.8	71.0
	数量関係	73.3	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	60.1	57.2	52.7
	数量や図形□についての技能	81.0	76.7	74.1
	数量や図形□についての知識・理解	76.6	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

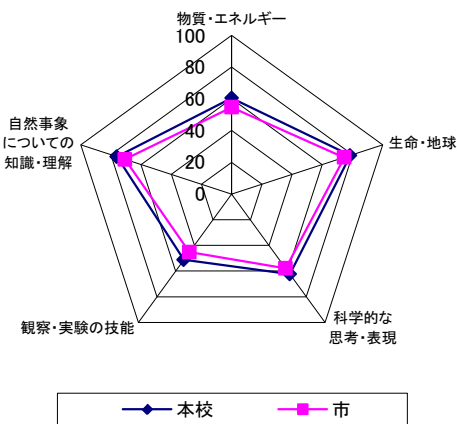
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○正答率は81.8%で、市平均より6.2ポイント上回った。 ○分数のかけ算は97.6%、分数のわり算は94.1%、分数のたし算は90.6%、小数のわり算は87.1%の正答率であり、市平均より上回っている。 ●小数のかけ算の正答率は77.6%で、上記の計算より定着度が低い。 ●文章問題に合った式(分数のわり算)を選ぶ問題の正答率は、45.9%で、特に低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・正答率の低かった小数のかけ算は、5年生の単元なので、やり方を再度復習し、計算ドリルやプリントで反復学習をこれからも続けることで定着を図っていきたい。 ・文章問題から数の関係を正しく捉えるために、数直線や図を適切に使えるような指導を繰り返し行い、自分の力で答えを導き出せる力を身に付けさせたい。
量と測定	○正答率は73.8%で、市平均と同程度である。 ○単位量当たりの考え方を使って、値段を比較し、説明する問題の正答率は82.9%で、6.5ポイント市より上回った。 ○三角形の面積を求める式を選ぶ問題は8.1ポイント、台形の面積を求める問題は3ポイント、市より上回った。 ●時速を求める問題では74.1%、道のりを求める問題では41.2%の正答率で、市平均より下回っている。	・量を求める計算をする際は、時速や道のり、時間の関係を正しく捉えた上で立式できたかどうかを確認する時間を設けることで、関係性を正しく捉える力を高めていきたい。 ・示された情報の中から必要な情報を選び取れるよう、具体物を用いながら操作したり考えたりする活動を取り入れる。
図形	○正答率は68.2%で、市平均より5.4ポイント上回った。 ●市平均よりも正答率は上回っているが、他領域と比較すると、正答率は低い。 ○合同な三角形を作図する問題の正答率は100%で、全児童が正答することができた。 ●七角形の内角の和を求める式を選ぶ問題は54.1%、線対称な図形を選ぶ問題は44.7%と正答率が低く、市平均より下回った。	・線対称な図形、多角形の内角の和、円周と円の直径の関係の学習を再度確認する。 ・基本的な問題だけではなく、発展的な問題にも触れさせ、多様な問題に対応できる力を身に付けさせたい。
数量関係	○正答率は73.3%で、市平均より3.2ポイント上回っている。 ●「比の値」を使って必要な材料の量を求める方法を説明する問題の正答率は33.5%で、全設問の中で一番正答率が低かった。 ○比例の関係をxとyを使って式に表す問題は95.3%の正答率で、6.3ポイント市平均より上回っていた。	・「比の値」の学習を再度確認し、理解を深めさせたい。 ・図や数直線を用いて数量の関係性を捉える学習をし、伝え合う学び合いの場を多く設けることで、比を用いた問題の理解を深めさせる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.4	54.6	57.5
	生命・地球	78.5	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	62.4	58.0	59.6
	観察・実験の技能	51.3	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	76.1	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○正答率は60.4%で、市平均より5.8ポイント上回っている。 ○ミウバンを溶かす前と、溶かした後で全体の重さが変わらないことや、ミウバンを取り出す方法のろ過について正しく理解している。 ●水溶液の性質について、何が溶けているか、実験結果から水溶液を考えたり、最適な見分け方を選ぶなど、どの問題についても正答率が低く、知識の定着に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験を行うだけでなく、なぜそのような結果になるのか自分で考える時間を設けたり、考察を児童と一緒に考え、学んだことが少しでも定着するよう、授業の改善を行っていく。 ・定期的にプリントなど、復習を行うことで、知識の定着を図っていきたい。
生命・地球	○正答率は78.5%で、市平均より4ポイント上回っている。 ○心臓の位置、腎臓の名前など、動物のからだのつくりとはたらきについて、正しく理解している児童が多く見られた。 ●ふ化したばかりのメダカが2～3日何も食べないでいられる理由や、光合成の実験結果から分かることなど、自分の言葉で説明する問題に課題が見られる。	・興味関心を高めるため、教室でメダカを飼ったり、実際の様子を観察するなど、本物に触れる学習活動を取り入れていく。 ・インターネットやデジタル教科書など、ICT教材も活用して、視覚に訴える授業を取り入れることで、知識の定着を図っていきたい。